

第222回くらしの植物苑観察会 2017年9月23日(土)

- 屋敷林の植物文化誌 -

辻 誠一郎(東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授)

屋敷林と平地林

屋敷林とは、屋敷森と呼ばれることもありますが、屋敷内に、屋敷を囲うように植えられた高木の木々を主体にして、さまざまな果樹や花木などの有用な木々から成り立っていることがふつうです。何と言っても屋敷すなわち家を取り巻いていることが大きな特徴で、典型的な屋敷林は家を囲っており、周囲の家々、屋敷との境の役割も担っているのです。家の裏側には竹藪(竹林)があり、その竹で作られた塀によって屋敷には入れないようにになっていることが多いようです。

近年では、家の建て替えによって屋敷は近現代的なものへと変化し、それとともに屋敷林は急速になくなって、ブロック塀などに作り変えられつつありますが、さいわいにも、佐倉城跡の旧城下には、屋敷の名が残された武家屋敷が移築されて、旧佐倉藩のかつての屋敷のたたずまいを観ることができます。駐車場などの施設によって屋敷林の規模はずいぶん狭められてしまいましたが、屋敷の境となっている高木の木々だけでなく、屋敷内に植えられたクリやカキノキなどの有用な木々も植えられています。さらに、季節ごとの畑作物を植える畑も確認できます。屋敷林とは、木々だけではなくこのような畑も重要な構成要素だといえるでしょう。

歴博のくらしの植物苑は、この武家屋敷に見立てて作られたようなもので、くらしの植物苑で屋敷林の木々や畑の様子を見ることができるのです。

屋敷林とよく似たものに平地林があります。関東平野には広い面積にわたって平地林があり、農民によって維持・管理されてきました。平地林を長らく研究された犬井 正さんは、低地・台地および丘陵と、山地の山麓緩斜面に存在する森林を平地林と呼んでいます。その実態は、農用林であったといってもいいでしょう。水田稲作をするにも、畑作をするにも大量の肥料が必要で、平地林で採取した落ち葉で作った肥料は農業生産には不可欠なものだったのです。肥料だけでなく、燃料用の薪炭材や建築材・土木用材にも利用されたのです。資源として利用されるだけでなく、防風林としての役割も担っていました。

屋敷林はあくまで家を取り巻く林であって、家を囲っているものだと言えますが、平地林は主としては農用林として農業生産のために維持・管理された二次林なので、規模はとて大きなものだといえるでしょう。ただ、農村へ行くと規模の大きな屋敷林をしばしば見ることができ、そこでは農用林と同様な性格も見られたりします。

屋敷林を作る木々

屋敷林の主役は何と言っても背の高い高木です。代表的な樹種は、ケヤキ、シラカシ、スギ、アカマツ、ヤブニッケイ、シロダモなどがあり、房総ではイヌマキが多くなります。ケヤキはもっとも背が高くなり、遠くからでもそれとわかるほど、箒(ほうき)を逆さまに立てたような樹形には特徴があります。枝が密に分かれており、背が高いため、防風の役割を担っていると言えますが、神様の住む木とも考えられており、とくに巨木・老木になったケヤキのたもとには家神さまが祀られていることもあります。ケヤキは建築用の木材資源としても重要です。

スギは常緑の針葉樹で、背も高くなるので、同様に防風の役割を担っていますが、まっすぐに伸びる性質があるので、屋敷の境界を示す役割も担っているのです。最近では邪魔者扱いされて伐採されたスギをよく見かけますが、よく見ると道路と屋敷の境に並んでいて、境界木として植えられていたのです。スギも老木はとて背が高くなり、まっすぐに伸びることから、神さまがこの木を伝わって家に降りてくると考えられてきました。

屋敷林で忘れてならないのはシラカシです。常緑の広葉樹で、寒さや冬の乾燥した季節風にも強いので、屋敷林には不可欠な木といってもいいでしょう。背も高くなるので、防風にはもってこいなのです。武家屋敷やくらしの植物苑にも背の高くなった立派なシラカシが植わっています。シラカシは「百益あって一害なし」と江戸時代の農学者宮崎安貞が『農業全書』で言っているように、屋敷林には不可欠な木として奨励されていたのです。佐倉でもときどき見られますが、屋敷を取り巻く生け垣として植えられています。埼玉県や群馬県では空っ風を防ぐのに「かしぐね」という生け垣を見ることができますが、北西方向にくねっていることから付けられた名前です。家がすっぽり見えなくなるほど背の高い「かしぐね」がかつてはどこでも見られましたが、この面倒をみられる職人さんがほとんどいなくなり、シラカシの見事な屋敷林が消えつつあります。

屋敷には、カキノキやウメ、モモ、クリなどの果樹も植えられています。また、サザンカやヤブツバキの大木が見られる屋敷もまれにあります。畑には、かつて雑穀類や野菜が植えられていたようです。その様子はくらしの植物苑で見てください。

このように見てみると、屋敷林はそこに住む人々の生活をささえる景観であったといえるでしょう。

.....

次回予告 第223回くらしの植物苑観察会 2017年10月28日(土)

「秋の植物観察」 由良 浩(千葉県立中央博物館 主席研究員兼生態学・環境研究科長)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要